

諏訪之瀬島の火山活動解説資料（平成 24 年 10 月）

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

御岳^{おたけ}火口では、爆発的噴火¹⁾は発生しませんでした。ごく小規模な噴火が断続的に発生しました。

今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

平成 19 年 12 月 1 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 10 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 3-①⑥）

御岳^{おたけ}火口では、爆発的噴火は発生しませんでした。ごく小規模な噴火が断続的に発生しました。

噴煙の最高高度は火口縁上 700m（9 月：最高 400m）でした。

同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映²⁾を時々観測しました。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、2 日と 5 日に島内の集落（御岳の南南西約 4 km）で降灰が確認されました。



図 1 諏訪之瀬島 10 月 11 日の状況（キャンプ場遠望カメラによる）
ごく小規模な噴火が断続的に発生し、噴煙が火口縁上 400m まで上がりました（10 月最高 700m）。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 24 年 11 月分）は平成 24 年 12 月 10 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、国土地理院のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

・地震や微動の発生状況（図 3-②～⑤⑦⑧、図 4）

火山性地震は少ない状態で経過しました。A型地震³⁾の月回数は22回（9月：37回）でした。B型地震³⁾の月回数は78回（9月：86回）で、そのうち65回が7日から11日にかけて発生しました。

火山性連続微動が引き続き発生し、火山性微動の継続時間の月合計は705時間19分（9月：67時間52分）と大幅に増加しました。

- 1) 諏訪之瀬島では、爆発地震を伴い、島内の空振計で一定基準以上の空振を観測した場合に爆発的噴火としています。
- 2) 赤熱した溶岩や高温の火山ガス等が、噴煙や雲に映って明るく見える現象です。
- 3) 火山性地震のうち、A型地震はP波、S波の相が明瞭で比較的周期の短い地震で、一般的に起こる地震と同様、地殻の破壊によって発生していると考えられ、マグマの貫入に伴う火道周辺の岩石破壊によって発生していることが知られています。また、B型地震は相が不明瞭で、比較的周期が長く、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震で、火道内のガスの移動やマグマの発泡などにより発生すると考えられています。P相やS相が明瞭で高周波成分が卓越する地震です。

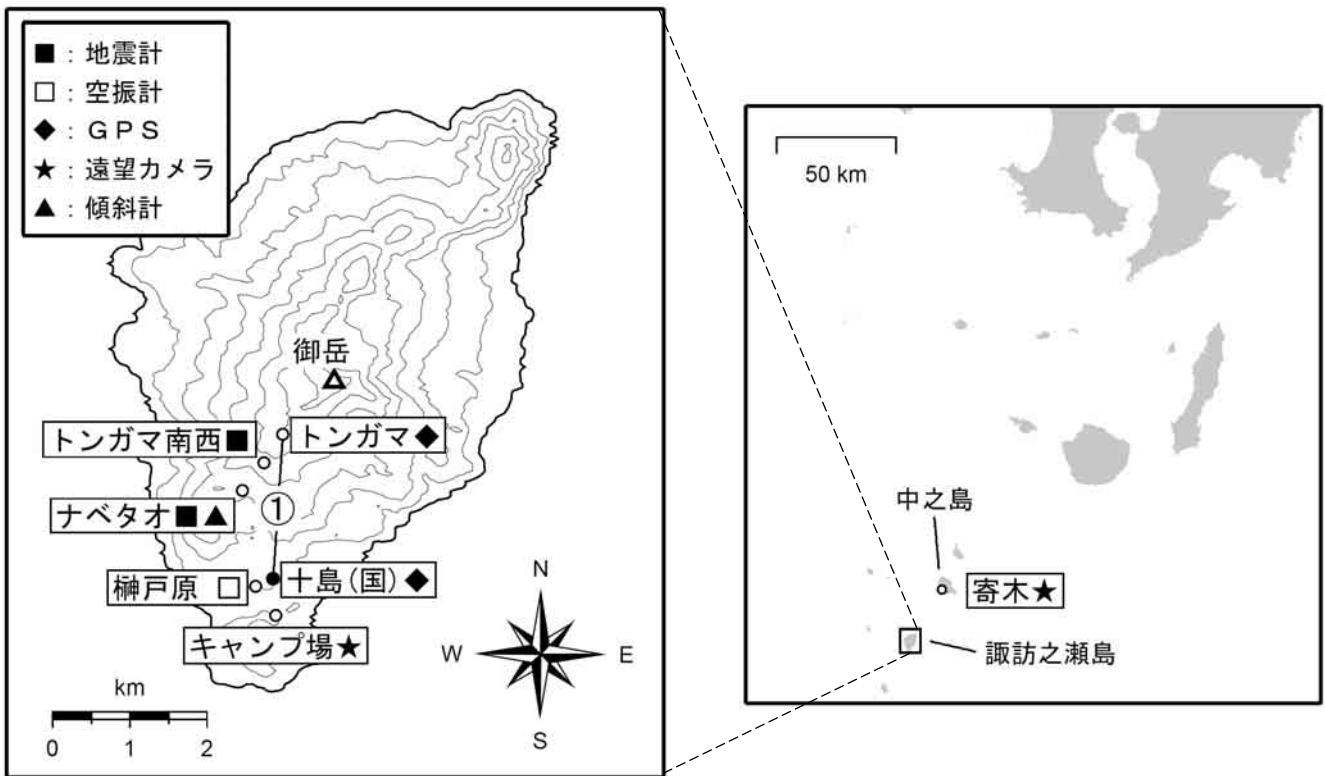


図 2 諏訪之瀬島 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院

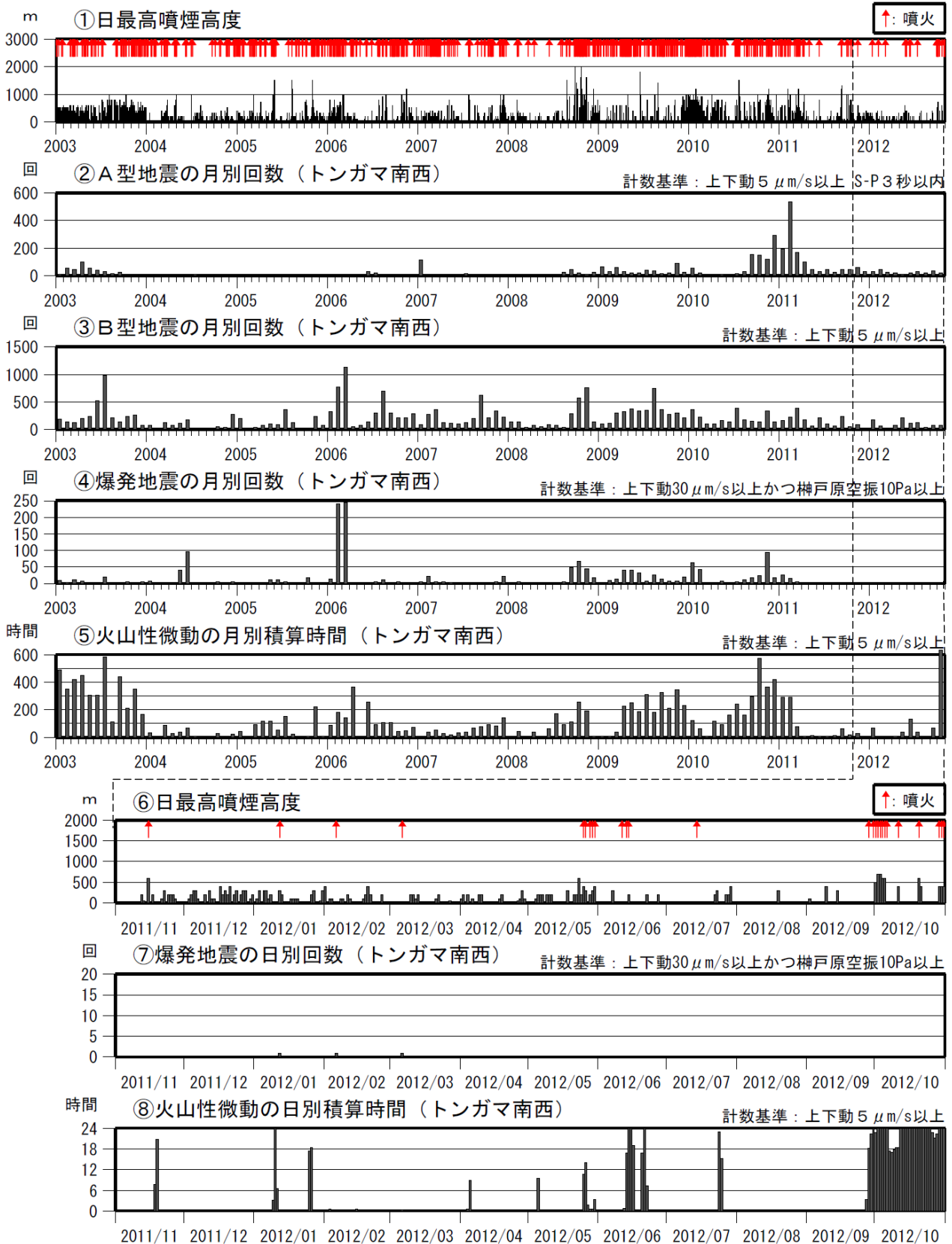


図3 諏訪之瀬島 火山活動経過図（2003年1月～2012年10月）

長期にわたり噴火を繰り返しています。

<10月の状況>

- ・ごく小規模な噴火が断続的に発生しました。
- ・A型地震の月回数は22回（9月：37回）でした。B型地震の月回数は78回（9月：86回）で、そのうち65回が7日から11日にかけて発生しました。

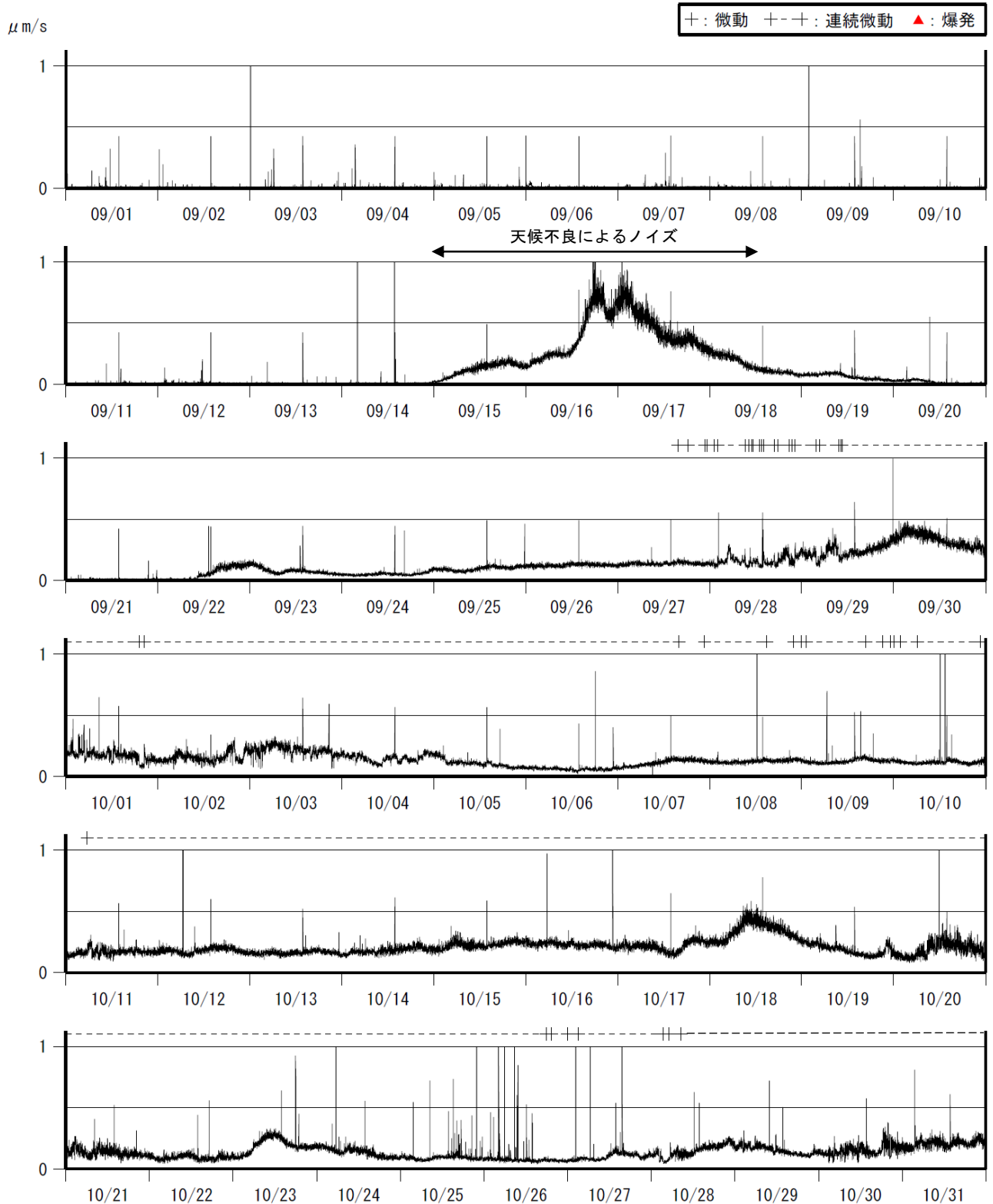


図4 諏訪之瀬島 1分間平均振幅の時間変化（ナベタオ上下成分）（2012年9月～10月）
 <10月の状況>

火山性連続微動が引き続き発生し、火山性微動の継続時間の月合計は705時間19分（9月：67時間52分）と大幅に増加しました。